

# 京都府改訂版レッドリスト 2024（昆虫類・クモ類・菌類）

令和7年1月23日

総合政策環境部

自然環境保全課

京都府では、府内における絶滅のおそれのある野生生物をとりまく状況の変化をふまえ、分野ごとに順次調査を実施し、レッドリスト※の改訂を進めています。

この度、「昆虫類」「クモ類」「菌類」の3つの分類群について、以下の通り、レッドリストを改訂しました。

※レッドリスト・・・絶滅のおそれのある野生生物種をとりまとめたリスト

## 1 改訂の概要

カテゴリー	昆虫類			クモ類		
	今回 (2024)	前回 (2015)	増減等	今回 (2024)	前回 (2015)	増減等
絶滅種 (府内で絶滅した種)	32種	28種	ランクアップ 54種	0種	0種	ランクアップ 0種
絶滅寸前種 (絶滅の危機に瀕している種)	92種	82種	ランクダウン 13種	0種	0種	ランクダウン 2種
絶滅危惧種 (絶滅の危険が増大している種)	121種	106種	新規掲載種 53種 〔うち新規発見〕	3種	5種	新規 7種 〔うち新規発見〕
準絶滅危惧種 (存続基盤が脆弱な種)	96種	68種	20種 〔うち新規発見〕	5種	3種	2種 〔うち新規発見〕
要注目種 (動向を注目、情報不足な種)	179種	213種	リスト外 30種 種名変更等 9種	8種	2種	リスト外 1種 種名変更等 1種
合計	520種	497種		16種	10種	

カテゴリー	菌類		
	今回 (2024)	前回 (2015)	増減等
絶滅種 (府内で絶滅した種)	2種	3種	ランクアップ 6種
絶滅寸前種 (絶滅の危機に瀕している種)	24種	31種	ランクダウン 14種
絶滅危惧種 (絶滅の危険が増大している種)	12種	7種	新規 7種 〔うち新規発見〕
準絶滅危惧種 (存続基盤が脆弱な種)	30種	27種	4種 〔うち新規発見〕
要注目種 (動向を注目、情報不足な種)	30種	27種	リスト外 6種 種名変更等 2種
合計	98種	95種	

## 2 特徴

- 昆虫類では、これまでも生息していたと考えられる複数の種が初めて発見され、全体でランクアップ 54 種、新規（新規発見を含む）53 種となった。ササ類の枯死やシカの食害などの影響でチョウ類の減少種が目立ち、13 種がランクアップ、17 種が新規掲載となった。水生昆虫の衰退も著しく、トンボ類では 14 種がランクアップとなった。
- クモ類では、府内や近隣府県で生息が確認されている 2 種をランクダウンとし、府内での確認が少ない 5 種及び分布が局地的な 2 種を要注目種として新規に掲載した。
- 菌類ではシカの食害による林床の乾燥化が著しく、ブナ帯を宿主とする菌類の減少が目立つ。DNA 利用により菌類の分類認識は大きく変化しており、段階的に見直してきた中で、リスト外にした種や再発見によりランクダウンした種もある。引き続き観察の継続が重要である。

## 3 今回の改訂で注目される種

### <昆虫類>

#### ウスバカマキリ（カマキリ科）

[前回]要注目種 ⇒ [今回]絶滅寸前種

これまで、「府内での分布は未確認だが、生息の可能性を否定できない。」となっていたが、2020 年に京都府内で初めて発見された。良好な草原の指標となる。



撮影者：平井 規央

#### シロヘリツチカメムシ（ツチカメムシ科）

[前回]目録外 ⇒ [今回]準絶滅危惧種（新規発見）

2020 年に京都府内の木津川堤防の草原で初めて発見された。カナビキソウを寄主植物とする。



撮影者：平井 規央

#### カワラゴミムシ（オサムシ科）

[前回]リスト外 ⇒ [今回]絶滅寸前種（新規掲載）

砂地の河川敷に生息する。以前は生息が確認されていたが、最近の記録はほとんど無い。全国的に個体数が減少している。



撮影者：平井 規央

### <クモ類>

#### イソタナグモ（ハグモ科）

[前回]目録外 ⇒ [今回]要注目種（新規発見）

海岸の岩場に管状住居を造り、入口に棚状の網を張る。国内に広く分布するものの、京都府内の記録は京丹後市網野町のみ。



撮影者：加村 隆英

#### ドウシグモ（ホウシグモ科）

[前回]絶滅危惧種 ⇒ [今回]準絶滅危惧種

最近、大阪府、兵庫県で発見があり、京都府の同様の環境で生息している可能性がある。



撮影者：加村 隆英

<菌類>

キイロスツポインタケ（スツポインタケ科）

[前回]絶滅種 ⇒ [今回]絶滅寸前種

再発見された。環境は比較的安定していると思われるが、シカ害による乾燥の影響を注視していく必要がある。



撮影者：赤石 あかいし だいすけ だいすけ 大輔

## 京都府改訂版レッドリスト2024

### 凡例

- △： アップリスト種
  - ▽： ダウンリスト種
  - ： 新規掲載種
  - ◎： 新規発見種
  - ☆： 種名変更など
  - ： リスト外に移行した種
- } 新規

### <昆虫類 520 種>

昆虫類については、今回の改訂より、ランクが上がった種が 54 種、ランクが下がった種が 13 種、新規に掲載された種が 33 種、新規に発見された種が 20 種、リスト外に移行された種が 30 種、分類の細分化により種名を変更した種が 9 種であった。

### 絶滅種 (32 種)

科名	種名
オサムシ科	アシグロアオゴミムシ、アシグロチビヒョウタンゴミムシ、オオサカアオゴミムシ、キベリマルクビゴミムシ、クビナガキベリアオゴミムシ、クロマルクビゴミムシ、ツヤキベリアオゴミムシ、フタモンマルクビゴミムシ
オトシブミ科	ヌルデケシツブチョッキリ☆
カミキリムシ科	アサカミキリ、イガブチヒゲハナカミキリ、ツマグロヒメハナカミキリ、ニセハムシハナカミキリ、ブチヒゲハナカミキリ
カミキリモドキ科	ルリカミキリモドキ
ゲンゴロウ科	シャープゲンゴロウモドキ、スジゲンゴロウ
コメツキムシ科	クロフトヒラタコメツキ、コガネコメツキ
シジミチョウ科	シルビアシジミ△
タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン△、オオウラギンヒョウモン△、ヒメヒカゲ△
タマムシ科	アカヘリミドリタマムシ
トンボ科	オオキトンボ、ベッコウトンボ、マダラナニワトンボ
ナガクチキムシ科	アカアシナガクチキ、オオナガクチキ
ナベブタムシ科	カワムラナベブタムシ△
ヒゲナガトビケラ科	ウジセトトビケラ
ホソガムシ科	ホソガムシ

### 絶滅寸前種 (92 種)

科名	種名
アオイトトンボ科	コバネアオイトトンボ△
アナバチ科	キゴシジガバチ△
アブ科	シロスネアブ△
イトトンボ科	ヒヌマイトンボ
エゾトンボ科	ハネビロエゾトンボ
オサムシ科	アオヘリアオゴミムシ▽、アキオサムシ、イズリハメクラチビゴミムシ、オオヒョウタンゴミムシ、カワラゴミムシ○、カワラハンミョウ、カ

	ンムリメクラチビゴミムシ、クビナガヨツボシゴミムシ、ダイゴメクラチビゴミムシ、チャマルチビヒョウタンゴミムシ、マホメクラチビゴミムシ
カクスイトビケラ科	キタヤマカクスイトビケラ
カタビロアメンボ科	オヨギカタビロアメンボ
カマキリ科	ウスバカマキリ△
カミキリムシ科	エゾトラカミキリ、オオトラカミキリ、シコクヒメコブハナカミキリ、フタスジカタビロハナカミキリ
キノコムシダマシ科	キムネキノコムシダマシ、ヒメカツオガタナガクチキ、ルリキノコムシダマシ
クモバチ科	ムツボシクモバチ
クロバエ科	カエルキンバエ
クワガタムシ科	オオクワガタ、ヒメオオクワガタ、マグソクワガタ
ケシキスイ科	カタベニツツケシキスイ、ミツノオオケシキスイ
ゲンゴロウ科	オオイチモンジシマゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、ナミゲンゴロウ(ゲンゴロウ)、マダラシマゲンゴロウ、ミウラメクラゲンゴロウ、ヤギマルケシゲンゴロウ△
コガネムシ科	ダイコクコガネ
コツブゲンゴロウ科	ムカシゲンゴロウ
コバンムシ科	コバンムシ
コブゴミムシダマシ科	ナガヒラタホソカタムシ
コブスジコガネ科	キョウトチビコブスジコガネ
ゴミムシダマシ科	オオダイマグソコガネダマシ、キイロチビコクヌストモドキ、コモンキノゴミムシダマシ、シナスナゴミムシダマシ、シワヒサゴゴミムシダマシ☆、セコブナガキマワリ、ホソクビキマワリ
コメツキムシ科	クラマアカコメツキ、ケシチビマメコメツキ、ナルカワナガクシコメツキ、ヘリアカカネコメツキ、ヒゲナガクロコメツキ
シジミチョウ科	クロシジミ△、ヒロオビミドリシジミ△、ベニモンカラスシジミ
ジョウカイモドキ科	アトキクロヒメジョウカイモドキ
シロチョウ科	スジボソヤマキチョウ△
セセリチョウ科	ギンイチモンジセセリ△、ヘリグロチャバネセセリ○、ミヤマチャバネセセリ○
ダエンマルトゲムシ科	シラホシダエンマルトゲムシ
タテハチョウ科	クロヒカゲモドキ△
タマムシ科	アオタマムシ、アサヒナルリナガタマムシ、クロコモンタマムシ☆
タマユラアブ科	ベッコウタマユラアブ(ベッコウクサアブ)
ツトガ科	ヒメコミズメイガ
ツリアブ科	スズキツリアブ
テントウムシ科	オオサカヒメテントウ
ナガクチキムシ科	ヒゲブトナガクチキ

ネスイムシ科	ムクゲネスイ、ムネビロネスイ
ハナアブ科	クロツヤタマヒラタアブ、トゲミケハラブトハナアブ、ムツボシナガハナアブ、ムツボシベッコウハナアブ
ハネカクシ科	ムネアカオオキバハネカクシ、ルイスムネボソヨツメハネカクシ
ハネカ科	カスミハネカ
ハバチ科	クチナガハバチ
ハムシ科	カワシマケブカハムシ、キンイロネクイハムシ、ツヤネクイハムシ
マルハナノミ科	オオチビマルハナノミ
ミズスマシ科	オオミズスマシ△、ミズスマシ(ナミミズスマシ)△
ヤンマ科	アオヤンマ△、ネアカヨシヤンマ△

絶滅危惧種 (121 種)

科	種名
アオイトトンボ科	オツネイトンボ△
アゲハチョウ科	ギフチョウ
アブ科	キンメアブ☆
アミカモドキ科	ニホンアミカモドキ
アメンボ科	エサキアメンボ
イトアメンボ科	イトアメンボ
イトトンボ科	ベニイトトンボ△
ウスバカゲロウ科	オオウスバカゲロウ
エンマムシ科	クロエンマムシ
オオハナノミ科	フタオビオオハナノミ
オサムシ科	オゴソコメクラチビゴミムシ、コスゲメクラチビゴミムシ、サクライメクラチビゴミムシ、シマメクラチビゴミムシ、シュテンメクラチビゴミムシ、セアカオサムシ、ユゲメクラチビゴミムシ、ヨシイメクラチビゴミムシ、ルリケイメクラチビゴミムシ
カミキリムシ科	オオホソコバナカミキリ、セダカコブヤハズカミキリ、ヒゲシロホソコバナカミキリ、ヒゲブトハナカミキリ、ムナコブハナカミキリ、マダラゴマフカミキリ、ヨコヤマヒゲナガカミキリ
ガガンボモドキ科	イッシキガガンボモドキ
ガムシ科	マルヒラタガムシ◎
クサアブ科	シマクサアブ◎
クシヒゲムシ科	クチキクシヒゲムシ
クモバチ科	ヤマトヌスミクモバチ△
クワガタムシ科	オニクワガタ、ルリクワガタ
ケシキスイ科	ヨツボシアカマルケシキスイ
ゲンゴロウ科	マルガタゲンゴロウ
コオイムシ科	タガメ、エチゴトックリゴミムシ○
コガシラミズムシ科	キイロコガシラミズムシ◎
コガネムシ科	オオキイロコガネ、トラハナムグリ○、マルオクロコガネ

コツブゲンゴロウ科	キボシチビコツブゲンゴロウ、ムモンチビコツブゲンゴロウ
コメツキムシ科	アカアシシモフリコメツキ、アカグロコメツキ、アシウアカコメツキ、クロホソキコメツキ、シナノカネコメツキ、スズキシモフリコメツキ、タカハチクロコメツキ、チビマメコメツキ、ニセチビマメコメツキ、ヒメオオナガコメツキ、ベッピンアカコメツキ、ホソマメコメツキ、ミズノクロコメツキ、ミゾムネチビサビキコリ、ミヤコアラハダチャイロコメツキ、ムネアカクロコメツキ、ヤツモンシモフリコメツキ、ヤマトクロコメツキ
サナエトンボ科	キイロサナエ△
シジミチョウ科	ウスイロオナガシジミ○、オナガシジミ△、キマダラルリツバメ△、キリシマミドリシジミ◎、ゴイシシジミ○
シデムシ科	ヤマトモンシデムシ
ジョウカイボン科	キイロシリプトジョウカイ
ジョウカイモドキ科	ベニオビジョウカイモドキ、ルリキオビジョウカイモドキ
シリアゲムシ科	ヒウラシリアゲ
シロチョウ科	ツマグロキチョウ
タイコウチ科	ヒメミズカマキリ
タテハチョウ科	ウラナミジャノメ△、ヒメキマダラヒカゲ△
タマキノコムシ科	オオヒゲブトチビシデムシ☆、ヤマトヒゲブトチビシデムシ☆
ツツキノコムシ科	スエヒロタケツツキノコムシ
ツツシンクイ科	ツマグロツツシンクイ
ツリアブ科	シバカワツリアブ
ツルギアブ科	タシマツルギアブ
テントウムシ科	オオツカヒメテントウ
トンボ科	ナニワトンボ△、ミヤマアカネ△
ナガハナノミダマシ科	ハバビロナガハナノミダマシ
ナガレアブ科	ハマダラナガレアブ△
ニンギョウトビケラ科	キョウトニンギョウトビケラ
バッタ科	カワラバッタ、セグロイナゴ(セグロバッタ)、ヤマトマダラバッタ(ヤマトバッタ)
ハナアブ科	アシプトヒラアシヒラタアブ○、オオナガハナアブ、クロハラナガハナアブ△、ケンランアリノスアブ◎、ジョウザンマメヒラタアブ○、ニセクチグロヒラタアブ△、ハイイロハナアブ、ハナダカマガリモンハナアブ
ハネカクシ科	アシナガニセオオキバハネカクシ△、クロオオキバハネカクシ△、ナカネメダカオオキバハネカクシ▽、ハネビロニセオオキバハネカクシ△
ハバチ科	イトウハバチ
ハムシ科	ウエツキブナハムシ、ムツキボシツツハムシ
ヒバリモドキ科	ウスモンウミコオロギ(ウスモンナギサズ)△、ハマスズ

ヒメシロカゲロウ科	ミツゲヒメカゲロウ○
ヒラタムシ科	ルリヒラタムシ
フトヒゲトビケラ科	ヒトスジキソトビケラ
ベニボタル科	チュウゼンジベニボタル
ミギワバエ科	アワウミワライミギワバエ、セマダラミギワバエ
ミズアブ科	コガタノミズアブ、ミズアブ△
ミズスマシ科	コオナガミズスマシ▽
ミツバチ科	ウスルリモンハナバチ◎、クロマルハナバチ、シロスジフトハナバチ☆
ムネカクトビケラ科	ヤマシロムネカクトビケラ

準絶滅危惧種 (96 種)

科	種名
アゲハチョウ科	ウスバシロチョウ○
アゲハモドキガ科	フジキオビ○
アシナガバエ科	ゼンズリストギンイロアシナガバエ▽
アナバチ科	フクイアナバチ
アブ科	イナウシアブ
イトトンボ科	オオイトトンボ△、モートンイトトンボ
イワトビケラ科	スイドウトビケラ
ウスバカゲロウ科	カスリウスバカゲロウ、マダラウスバカゲロウ
オサムシ科	イグチケブカゴミムシ▽、イソチビゴミムシ▽
カネタタキ科	イソカネタタキ
カマキリ科	ヒナカマキリ△
カミキリムシ科	オニホソコバネカミキリ◎
ガムシ科	ニセコクロヒラタガムシ◎
ギングチバチ科	アカオビケラトリバチ、カゲロウギングチバチ、ガロアギングチバチ、キアシハナダカバチモドキ、ヤマトスナハキバチ、ニッポンツヤバチ、ニッポンハナダカバチ、フクイジガバチモドキ
クサアブ科	ネグロクサアブ
クモバチ科	スギハラクモバチ、フタモンクモバチ
ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ▽、シマゲンゴロウ○
コオイムシ科	コオイムシ
コガシラアブ科	タケウチセダカコガシラアブ△
コガネムシ科	オオチャイロハナムグリ△
コンボウハバチ科	ハナセヒラクチハバチ
サナエトンボ科	オグマサナエ△、コサナエ△、ヒラサナエ△、メガネサナエ△
シギアブ科	マエグロシギアブ
シジミチョウ科	ウラキンシジミ○、ウラジロミドリシジミ、ウラナミアカシジミ、ウラムシジミ○、コツバメ○、ミドリシジミ○

シロチョウ科	ヤマトスジグロシロチョウ○
セセリチョウ科	オオチャバネセセリ○、ミヤマセセリ○
セミ科	エゾハルゼミ
ゾウムシ科	クロアシナガゾウムシ△
タイコウチ科	タイコウチ○
タテハチョウ科	オオヒカゲ、オオムラサキ、コムラサキ○、サカハチチョウ○、シータテハ○、ヤマキマダラヒカゲ○
タマユラアブ科	イトウタマユラアブ
ツチカメムシ科	シロヘリツチカメムシ◎
ツリアブ科	アリジゴクツリアブ◎
トンボ科	ハッチョウトンボ
ハキリバチ科	クズハキリバチ、マイマイツツハナバチ
ハナアブ科	ガロアアナアキハナアブ、クロアシハラナガハナアブ、クロハナブトハナアブ、ハチモドキハナアブ、ハナナガモモトコハナアブ、ルリハナアブ
ハネカクシ科	アバタツヤムネハネカクシ△、ドウバネアナバケハネカクシ△、ナガクシヒゲツヤムネハネカクシ△、ニセキノカワハネカクシ△、ムモンチャバネキノコハネカクシ△
ヒバリモドキ科	ウミコオロギ(ナギサスズ)△
ヒメカマキリ科	ヒメカマキリ
ヒラタハバチ科	シロズヒラタハバチ
マダラカゲロウ科	キマダラカゲロウ
ミギワバエ科	クロトゲミギワバエ
ミズアブ科	キスネハラキンミズアブ、スジボソフトハナバチ▽、トラマルハナバチ、ヒラヤマミズアブ、ルリモンハナバチ▽
ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ
ムシヒキアブ科	トラフムシヒキ、ホソムシヒキ
メバエ科	ヤマトクチブトメバエ
モノサシトンボ科	ゲンバイトンボ
ヤガ科	エゾスジヨトウ、オオチャバネヨトウ○、ガマヨトウ△、キスジウスキヨトウ○
ヤチバエ科	ヤドリヤチバエ◎
ヤマトンボ科	キイロヤマトンボ
ヤンマ科	カトリヤンマ△、ルリボシヤンマ

要注目種 (179 種)

科	種名
アブ科	ヤマグチキンメアブ
アリモドキ科	ヘリハネムシ
イトトンボ科	セスジイトトンボ、ムスジイトトンボ
イワトビケラ科	ニッポンコイワトビケラ

ウスバカゲロウ科	リュウキュウホシウスバカゲロウ
オオキノコムシ科	オオキノコムシ、カタモンナガチビオオキノコ
オオハナノミ科	クチキオオハナノミ
オサムシ科	アオバネホソクビゴミムシ、オオエヤマヌレチゴミムシ、オグラヒラタゴミムシ、キョウトオオナガゴミムシ、キョウトナガゴミムシ、コブルリオトシブミ、セスジヒラタゴミムシ○、タカバクロヒラタゴミムシ、タナカツヤゴモクムシ、タンゴメクラチビゴミムシ、ダイセンナガゴミムシ、ダイヒザンナガゴミムシ、ヒメセボシヒラタゴミムシ、ヒロムネナガゴミムシ、ポンポンメクラチビゴミムシ、ヨウロウメクラチビゴミムシ
カ科	トワダオオカ
カクスイトビケラ科	コカクツツトビケラ、ハナセマルツツトビケラ
カタツムリトビケラ科	カタツムリトビケラ
カッコウムシ科	ルリホシカムシ
カミキリムシ科	アカネクスジトラカミキリ、オガサワラチャイロカミキリ、キイロミヤマカミキリ、キュウシュウチビトラカミキリ、ケブカマルクビカミキリ、トガリバホソコバナカミキリ◎、トゲムネホソヒゲカミキリ、ニッポンモモフトコバナカミキリ、ピックチビコブカミキリ、フトキクスイモドキカミキリ、ホソツツリンゴカミキリ、ムネアカメダカカミキリ、ヨツボシカミキリ
カレハガ科	ワタナベカレハ
ガガンボ科	カネノクモガタガガンボ
キアブ科	ケジロキアブ
キノコバエ科	マダラカモドキ◎
キブネクダトビケラ科	キブネクダトビケラ
キリギリス科	イブキヒメギス、ヒサゴクサキリ
クダアザミウマ科	オモトクダアザミウマ◎、 <i>Liothrips fungi</i> (和名なし)◎、 <i>Hoplothrips tua</i> (和名なし)◎
クダトビケラ科	ニッポンクダトビケラ、ヒガシヤマクダトビケラ、ミヤコクダトビケラ
クモバチ科	アオスジクモバチ▽
クロツツトビケラ科	クロツツトビケラ
クワガタムシ科	トウカイコルリクワガタ(近畿亜種)、マダラクワガタ
ケシキスイ科	マルヒラタケシキスイ
コエグリトビケラ科	キョウトコエグリトビケラ
コメツキムシ科	ウスカバイロコメツキ、オグラカバイロコメツキ☆、キョウトチビマメコメツキ、コガタシモフリコメツキ、ツシマヒメサビキコリ、ニセニホンチビマメコメツキ、ハマベオオヒメサビキコリ、ヒメクロナガコメツキ、ホソアカツヤコメツキ
コロギス科	コバネコロギス
ゴミムシダマシ科	コメノゴミムシダマシ、シワナガキマワリ、マルツヤニジゴミムシダマシ

ササキリモドキ科(ヒメツユムシ科)	キタササキリモドキ(ヒメヤブキリモドキ)、ハダカササキリモドキ、ホンシュウフタエササキリモドキ
サナエトンボ科	オオサカサナエ、タベサナエ、ヒメサナエ、フタスジサナエ、ミヤマサナエ
サビカッコウムシ科	ヨツモンチビカッコウムシ
シギアブ科	ツノヒゲシギアブ
シマトビケラ科	コガタシマトビケラ、キブネシマトビケラ
シャチホコガ科	タツタカモクメシャチホコ
ジョウカイボン科	シマシマクビボソジョウカイ
シロイロカゲロウ科	オオシロカゲロウ
スズメガ科	オオシモフリスズメ
セミ科	アカエゾゼミ
ゾウムシ科	アオヒゲナガクチブトゾウムシ、サビマルクチゾウムシ、スナムグリヒョウタンゾウムシ、タカハシトゲゾウムシ
チビシテムシ科	キョウトコチビシテムシ
チビゾウムシ科	ケシチビゾウムシ
チャバネゴキブリ科	キョウトゴキブリ
ツツヒラタムシ科	ツツヒラタムシ
ツトガ科	ハマゴウノメイガ、ミドロミズメイガ○
ツバメガ科	ギンツバメ
ツユムシ科	ヘリグロツユムシ
ツルギアブ科	ナギサツルギアブ▽
デガシラバエ科	オオハチモドキバエ
テントウムシ科	クロジョウニホシテントウ▽、クロヘリメツブテントウ、ミカドテントウ▽
トビイロカゲロウ科	オオトゲエラカゲロウ
トンボ科	マイコアカネ
ナガレトビケラ科	クレメンスナガレトビケラ、ミジカオナガレトビケラ、カワムラナガレトビケラ、クラマナガレトビケラ、トランスクイラナガレトビケラ、ヨシイナガレトビケラ
ニクバエ科	ハマベニクバエ
ハキリバチ科	トモンハナバチ
バツタ科	クルマバツタ、ショウリョウバツタモドキ、ミヤマフキバツタ種群、
ハナアブ科	アエカヨコモンヒラタアブ、キヒゲアシフトハナアブ○、キョウトハナアブ、クロオビハラフトハナアブ☆、コブアリノスアブ◎、コマバムツボシヒラタアブ、ジョウザンナガハナアブ、ニッコウクロハナアブ、フタオビアリノスアブ、プサロクロハナアブ、ミツオビヒゲナガハナアブ○
ハネカクシ科	コクシヒゲツヤムネハネカクシ、タカハシセスジハネカクシ、ニホンヒョウタンメダカハネカクシ

ハムシ科	ユリクビナガハムシ
ヒゲナガゾウムシ科	クロオビキノコヒゲナガゾウムシ
ヒゲナガトビケラ科	ツダヒゲナガトビケラ、カモヒゲナガトビケラ、ミヤコヒゲナガトビケラ、コガタヒゲナガトビケラ、トサカヒゲナガトビケラ、チビセトトビケラ、ヒメセトトビケラ
ヒメカマキリ科	サツマヒメカマキリ◎
ヒョウホンムシ科	ケモンセスジシバンムシ
ヒラタカゲロウ科	キハダヒラタカゲロウ、ムナグロキハダヒラタカゲロウ
ホタル科	ゲンジボタル、ヒメボタル、ヘイケボタル
マダラカゲロウ科	イマニシマダラカゲロウ、チノマダラカゲロウ
マダラガ科	ヤホシホソマダラ◎
マツムシ科	クチキコオロギ、コガタカンタン、マツムシモドキ
ミギワバエ科	ニノミヤトビクチミギワバエ、ヤマトミギワバエ、ラカンミギワバエ
ミズアブ科	アシグルルリミズアブ、ハラビロミズアブ、ヒメキイロコウカアブ、ミドロミズアブ
ミツギリゾウムシ科	アカオニミツギリゾウムシ、チャバネホソミツギリゾウムシ、ホソミツギリゾウムシ
ムシヒキアブ科	オオイシアブ、ツマグロヒゲボソムシヒキ、トゲツヤイシアブ、ハマベコムシヒキ、ムラサキクチブトイシアブ◎
メイガ科	イノウエトガリメイガ
ヤガ科	キシタアツバ○、キマダラコヤガ、ニセフジロアツバ
ヤマトビケラ科	ヤセコヤマトビケラ
ヤママユガ科	シンジュサン○

※リスト外に移行した種 (30 種)

科	種名
オサムシ科	キョウトメクラチビゴミムシ■、クロカタビロオサムシ■、ナミハンミョウ(ハンミョウ)■
オトシブミ科	ビロードアシナガオトシブミ■
カッコウムシ科	ヤマトヒメメダカカッコウムシ■
カマキリ科	カマキリ■
カメムシ科	ルリクチブトカメムシ■
ガガンボ科	ミカドガガンボ■
ガムシ科	ガムシ(オオガムシ)■
ケラ科	ケラ■
ゲンゴロウ科	カンムリセスジゲンゴロウ■
コメツキムシ科	コガタヒメサビキコリ■、タンバコクロコメツキ■、ニホンチビマメコメツキ■、ヒラタクシコメツキ■、フタモンウバタマコメツキ■、ヤマモトツヤミズギワコメツキ■、ヨツボシミズギワコメツキ■

ゴミムシダマシ科	クロキノコゴミムシダマシ■、ハネナシセスジキマワリ■、ヤマトオサムシダマシ■
シギアブ科	キアシキンシギアブ■
タムムシ科	オオムツボシタムムシ■
チャバネゴキブリ科	ツチゴキブリ■
ツリアブ科	クロバネツリアブ■
テントウムシ科	クロスジチャイロテントウ■
ハムシ科	キベリハムシ■
ハルカ科	ハマダラハルカ■
ヒメドロムシ科	ヨコミゾドロムシ■
ムシヒキアブ科	アオメアブ■

<クモ類 16種>

クモ類については、今回の改訂より、ランクが下がった種が2種、新規に掲載された種が5種、新規に発見された種が2種、リスト外に移行された種が1種、分類体系の変更により科名を変更した種が1種であった。

絶滅危惧種（3種）

科	種名
カネコタテグモ科	カネコタテグモ
コモリグモ科	イソコモリグモ
ハグモ科	ミズグモ☆

準絶滅危惧種（5種）

科	種名
ジグモ科	ワスレナグモ
トタテグモ科	キシノウエトタテグモ、キノボリトタテグモ
ヒトエグモ科	ヒトエグモ▽
ハウシグモ科	ドウシグモ▽

要注目種（8種）

科	種名
エンマグモ科	シマミヤグモ○
サラグモ科	アシュウヤミサラグモ
コガネグモ科	キジロオヒキグモ○、ゲホウグモ○
スオウグモ科	ムロズミノレグモ○
ナミハグモ科	タンゴコガタナミハグモ○、ダイヤモンドナミハグモ◎
ハグモ科	イソタナグモ◎

※リスト外に移行した種（1種）

科	種名
ヒメグモ科	コガタコノハグモ■

<菌類 98 種>

菌類については、今回の改訂より、ランクが上がった種が6種、ランクが下がった種が14種、新規に掲載された種が3種、新規に発見された種が4種、リスト外に移行された種が6種、分類の細分化により種名を変更した種が2種であった。

絶滅種（2種）

科	種名
イグチ科	タマノリイグチ
スッポンタケ科	ウスキキヌガサタケ

絶滅寸前種（24種）

科	種名
アミガサタケ科	イモタケ
オフィオコルディセプス科	ウメムラセミタケ、ウンカハリタケ、オサムシタケ、コニシセミタケ、タンポヤンマタケ△、マイヅルナガエムシタケ
ショウロ科	ホンショウロ
スッポンタケ科	キイロスッポンタケ▽、シマイヌノエフデ、ツガノマンネンタケ、ヨツデタケ
タマバリタケ科	ヤチヒロヒダタケ
ツベウフィア科	マイヅルヨコバイタケ
ニセショウロ科	アミメニセショウロ
ノムシタケ科	クサギムシタケ、シロツブクロクモタケ、トビシマセミタケ、ハトミネクモタケ
ハラタケ科	ウロコケシボウズタケ、ナガエノホコリタケ、マグソヒトヨタケ
バツカクキン科	ハヤカワセミタケ、ミドリトサカタケ

絶滅危惧種（12種）

科	種名
オフィオコルディセプス科	セミタケ
カブラマツタケ科(キシメジ科に編入する意見もある)	ブンゴツボマツタケ▽
キシメジ科	バカマツタケ
スッポンタケ科	アカイカタケ▽、カゴタケ▽
ツチダンゴ科	コウボウフデ▽
ニクザキン科	オオボタンタケ◎
ノムシタケ科	ウスイロコゴメセミタケ◎、テッポウムシタケ▽
バツカクキン科	ミドリクチキムシタケ
ベニチャワンタケ科	オオミノミミブサタケ
マユハキタケ科	マユハキタケ

準絶滅危惧種（30種）

科	種名
アミガサタケ科	テンガイカブリタケ△
イグチ科	ヒメウグイスイグチ
オオゴムタケ科	エツキクロコップタケ△
オフィオコルディセプス科	マルミアリタケ、ヤンマタケ
キシメジ科	キシメジ、シモコシ、マツタケ、マツタケモドキ
シメジ科	ブナシメジ△、ホンシメジ
ショウロ科	ショウロ▽、
スッポンタケ科	イカタケ▽
ツチダンゴ科	ツチダンゴ△、
テングタケ科	コトヒラシロテングタケ、チャオニテングタケ
ニンギョウタケ科	ニンギョウタケモドキ
ノボリリュウ科	クラガタノボリリュウ
ノムシタケ科	アカミノオグラクモタケ、アブラゼミタケ、ツクツクボウシタケ
ハラタケ科	オオノウタケ
フウセンタケ科	ショウゲンジ
フクロシトネタケ科	クルミタケ△
ベニタケ科	ハツタケ、ルリハツタケ
ベニチャワンタケ科	ミミブサタケ
ボタンタケ科	スッポンヤドリタケ▽
マツバハリタケ科	クロカワ、コウタケ

#### 要注目種 (30 種)

科	種名
アミガサタケ科	ツネノアミガサタケ
イグチ科	アオゾメクロツブタケ(イロガワリクロツブタケ)、イロガワリヤマイグチ、ヤマドリタケ◎
オフィオコルディセプス科	キイロクビオレタケ、タンポタケ○、ヌメリタンポタケ○
シメジ科	シロタモギタケ◎
セイヨウショウロ科	アジアクロセイヨウショウロ☆、ウスチャセイヨウショウロ、ウロイボセイヨウショウロ☆、シロセイヨウショウロ、チャセイヨウショウロ
テングタケ科	カブラテングタケ、キタマゴタケ▽、ミヤマタマゴタケ
ハラタケ科	キンチャクタケ、シバフダンゴタケ、スジチャダイゴケ▽
バツカクキン科	クサナギヒメタンポタケ○
ヒダハタケ科	アカダマタケ
ヒドナンギウム科	コイシタケ
ヒメノガステル科	サザレイシタケ、シロツブタケ、マメツブタケ
ピロネマ科	ジマメタケ
ベニタケ科	アカモミタケ▽
マツバハリタケ科	ケロウジ

ラッパタケ科

ウスタケ▽、フジウスタケ▽

※リスト外に移行した種（6種）

科	種名
オフィオコルディセプス科	トガリスズメバチタケ■
キンカクキン科	マツカサチャワンタケ■
セイヨウショウロ科	クロアミメセイヨウショウロ■
テングタケ科	カバイロコナテングタケ■
ナヨタケ科	クロヒメオニタケ■
ピロネマ科	ウツロイモタケ■

昆虫類変更点

アップリスト種(54種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2023	備考(公表用)
蜻蛉(トンボ)目	アオイトトンボ科	オツネイトンボ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	現存する産地は南部に限られており個体数も多くない。溜池の放置あるいは開発により生息環境が悪化している。
蜻蛉(トンボ)目	アオイトトンボ科	コバナアオイトトンボ	絶滅危惧種	絶滅寸前種	多くの産地が開発等による環境破壊で消滅した。府内中部では著しい環境変化がなくても姿を消してしまった。唯一京都市内1箇所において僅かに生き残っているだけである。
蜻蛉(トンボ)目	イトトンボ科	ペニイトンボ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	分布は普遍的でなく、生息地が安易に開発される可能性がある。
蜻蛉(トンボ)目	イトトンボ科	オオイトトンボ	要注目種	準絶滅危惧種	クロイト・セスジ・オオイトの3種が生息する中で最初に消えていくのは本種である。環境以外に生存競争に弱いのかも知れない。農薬の影響が水田からは姿を消し、放置された湿地状の休耕地や限られた人工池等に残存するだけである。
蜻蛉(トンボ)目	ヤンマ科	アオヤンマ	絶滅危惧種	絶滅寸前種	属名が <i>Aeschnophlebia</i> から <i>Brachytrion</i> に変更。環境が整備されると見かけなくなる。京都市内でも少数が生息する状況である。
蜻蛉(トンボ)目	ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	絶滅危惧種	絶滅寸前種	属名が <i>Aeschnophlebia</i> から <i>Brachytrion</i> に変更。一部分に残存しているだけである。
蜻蛉(トンボ)目	ヤンマ科	カトリヤンマ	要注目種	準絶滅危惧種	生息地・個体数が激減している。昔の様に群飛するのは見られなくなった。
蜻蛉(トンボ)目	サナエトンボ科	ヒラサナエ	要注目種	準絶滅危惧種	モイワサナエの亜種。生息地である山間部湿地の乾燥化と、シカの食害・踏み荒らし等で環境が著しく荒廃した。
蜻蛉(トンボ)目	サナエトンボ科	オグマサナエ	要注目種	準絶滅危惧種	新産地も見つかっているが減少が進んでいる。水質悪化するとフタスジは生き残っても本種はいなくなる。
蜻蛉(トンボ)目	サナエトンボ科	コサナエ	要注目種	準絶滅危惧種	分布は限定されており、生息池も植生の遷移により悪化し個体数も少ない。
蜻蛉(トンボ)目	サナエトンボ科	メガネサナエ	要注目種	準絶滅危惧種	府内南部の一部にのみ生息。最近の記録はないが生息していると推測する。
蜻蛉(トンボ)目	サナエトンボ科	キイロサナエ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	生息環境は開発され易く、産地の多くが消滅した。唯一京都市内1箇所でかろうじて生き残っているが、見るのが難しい種となった。
蜻蛉(トンボ)目	トンボ科	ナニワトンボ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	京都府西南部では見られなくなった。京都府南部地域に生息地が僅か残っているだけである。
蜻蛉(トンボ)目	トンボ科	ミヤマアカネ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	水田回りの土で作られた細流がコンクリート化されたこと、農薬の影響により多くの産地から姿が消えた。河川2つと数カ所に生息地が奇跡的に残っている。
直翅(バッタ)目	ヒバリモドキ科	ウミコオロギ(ナギサスズ)	要注目種	準絶滅危惧種	海岸性
直翅(バッタ)目	ヒバリモドキ科	ウスモンウミコオロギ(ウスモンナギサスズ)	要注目種	絶滅危惧種	海岸性
蟷螂(カマキリ)目	カマキリ科	ヒナカマキリ	要注目種	準絶滅危惧種	
蟷螂(カマキリ)目	カマキリ科	ウスバカマキリ	要注目種	絶滅寸前種	これまで、「府内での分布は未確認だが、生息の可能性を否定できない。」となっていたが、2020年に京都府内で初めて発見された。良好な草原の指標となる。
半翅(カメムシ)目	ナベブタムシ科	カワムラナベブタムシ	絶滅寸前種	絶滅種	疎水などに生息していたが、京都府では1962年以降記録が無い。最近の調査でも全く見つからない。
鞘翅(コウチュウ)目	ミズスマシ科	オオミズスマシ	要注目種	絶滅寸前種	産地が極限されるようになったため。
鞘翅(コウチュウ)目	ミズスマシ科	ミズスマシ(ナミミズスマシ)	絶滅危惧種	絶滅寸前種	産地が極限されてしまったため。
鞘翅(コウチュウ)目	ゲンゴロウ科	ヤギマルケシゲンゴロウ	絶滅危惧種	絶滅寸前種	
鞘翅(コウチュウ)目	ハネカクシ科	ニセキノカワハネカクシ	要注目種	準絶滅危惧種	
鞘翅(コウチュウ)目	ハネカクシ科	ドウバナアナバケハネカクシ	要注目種	準絶滅危惧種	
鞘翅(コウチュウ)目	ハネカクシ科	クロオオキバハネカクシ	要注目種	絶滅危惧種	
鞘翅(コウチュウ)目	ハネカクシ科	アシナガニセオオキバハネカクシ	要注目種	絶滅危惧種	
鞘翅(コウチュウ)目	ハネカクシ科	ハネビロニセオオキバハネカクシ	要注目種	絶滅危惧種	

鞘翅(コウチュウ)目	ハネカクシ科	ナガクシヒゲツヤムネハネカクシ	要注目種	準絶滅危惧種	<i>Velleius elongatus</i> からの変更(2015)
鞘翅(コウチュウ)目	ハネカクシ科	アバタツヤムネハネカクシ	要注目種	準絶滅危惧種	
鞘翅(コウチュウ)目	ハネカクシ科	ムモンチャバネキノコハネカクシ	要注目種	準絶滅危惧種	
鞘翅(コウチュウ)目	コガネムシ科	オオチャイロハナムグリ	要注目種	準絶滅危惧種	
鞘翅(コウチュウ)目	ゾウムシ科	クロアシナガゾウムシ	要注目種	準絶滅危惧種	<i>Mecysolobus takahashii</i> からの変更(2015)
双翅(ハエ)目	ナガラアブ科	ハマダラナガラアブ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	
双翅(ハエ)目	アブ科	シロスネアブ	絶滅危惧種	絶滅寸前種	
双翅(ハエ)目	ミズアブ科	ミズアブ	要注目種	絶滅危惧種	
双翅(ハエ)目	コガシラアブ科	タケウチセダコガシラアブ	要注目種	準絶滅危惧種	
双翅(ハエ)目	ハナアブ科	クロハラナガハナアブ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	和名変更(2015)
双翅(ハエ)目	ハナアブ科	ニセクチクロヒラタアブ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	
鱗翅(チョウ)目	セセリチョウ科	ギンイチモンジセセリ	絶滅危惧種	絶滅寸前種	府内中部では1990年代に絶滅し、産地は府内南部1か所で個体数も少ない。
鱗翅(チョウ)目	シロチョウ科	スジボソヤマキチョウ	準絶滅危惧種	絶滅寸前種	元々少ない蝶ではあったが、府内北部以外では近年報告がない。
鱗翅(チョウ)目	シジミチョウ科	オナガシジミ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	産地は数か所しかなく、個体数も少ない。京都市内で近年発見されている。
鱗翅(チョウ)目	シジミチョウ科	ヒロオビミドリシジミ	絶滅危惧種	絶滅寸前種	府内中部では1990年頃までは局地的には多産したが以後急激に数を減らした。
鱗翅(チョウ)目	シジミチョウ科	クロシジミ	準絶滅危惧種	絶滅寸前種	1990年代に急激に数を減らし2000年以降の報告は少ない。近年は報告がない。
鱗翅(チョウ)目	シジミチョウ科	キマダラルリツバメ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	産地は極めて局地的ではあるが、各所で見られたが、2000年台に入って限られた産地のみとなった。
鱗翅(チョウ)目	シジミチョウ科	シルビアシジミ	絶滅寸前種	絶滅種	異名:シルビヤシジミ。1960年代までは京都市内及び府内南部に生息、1970年代までは府内中部に生息。以後記録がない。
鱗翅(チョウ)目	タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン	絶滅危惧種	絶滅種	2000年以前は各地で報告があったが、その後、報告がない。
鱗翅(チョウ)目	タテハチョウ科	ヒメヒカゲ	絶滅寸前種	絶滅種	1960年代までは記録があるが、1980年代にはほぼ絶滅したと思われ以後記録はない。
鱗翅(チョウ)目	タテハチョウ科	オオウラギンヒョウモン	絶滅寸前種	絶滅種	府内南部で多産したが、1980年代に激減し1990年代に絶滅したと考えられる。
鱗翅(チョウ)目	タテハチョウ科	クロヒカゲモドキ	準絶滅危惧種	絶滅寸前種	1990年代に急激に数を減らし、2000年以降の報告は少ない。近年は報告が極めて少ない。
鱗翅(チョウ)目	タテハチョウ科	ウラナミジャノメ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	産地は局地的。現在は府内南部でのみ発生。京都市内は絶滅。
鱗翅(チョウ)目	タテハチョウ科	ヒメキマダラヒカゲ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	山地の笹原に広く多産したが、2006年の大規模な笹枯れ以降、府内北部を除き報告がない。
鱗翅(チョウ)目(蛾類)	ヤガ科	ガマヨトウ	要注目種	準絶滅危惧種	<i>Capsula aerata</i> から変更(2024)。最近京都における既知の生息地では本種の確認ができなくなったため。
膜翅(ハチ)目	クモバチ科	ヤマトヌスミクモバチ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	異名:ヤマトヌスミベッコウ
膜翅(ハチ)目	アナバチ科	キゴシジガバチ	絶滅危惧種	絶滅寸前種	最近の記録が全くなく、おそらく絶滅していると考えられる。

#### ダウンリスト種(13種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2023	備考
鞘翅(コウチュウ)目	ミズスマシ科	コオナガミズスマシ	絶滅寸前種	絶滅危惧種	
鞘翅(コウチュウ)目	ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	
鞘翅(コウチュウ)目	オサムシ科	イソチビゴミムシ	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	
鞘翅(コウチュウ)目	オサムシ科	アオヘリアオゴミムシ	絶滅種	絶滅寸前種	
鞘翅(コウチュウ)目	オサムシ科	イグチケブカゴミムシ	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	
鞘翅(コウチュウ)目	ハネカクシ科	ナカネメダカオオキハハネカクシ	絶滅寸前種	絶滅危惧種	メダカオオキハハネカクシからの変更(2015)
鞘翅(コウチュウ)目	テントウムシ科	ミカドテントウ	絶滅寸前種	要注目種	<i>Chilocorus mikado</i> からの変更(2015)
鞘翅(コウチュウ)目	テントウムシ科	クロジウニホシテントウ	絶滅寸前種	要注目種	
双翅(ハエ)目	ツルギアブ科	ナギサツルギアブ	絶滅危惧種	要注目種	
双翅(ハエ)目	アシナガバエ科	ゼンズリストギンイロアシナガバエ	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	<i>Helcostomus</i> 属(クチヒゲアシナガバエ属)からの変更(2015)

膜翅(ハチ)目	クモバチ科	アオスジクモバチ	準絶滅危惧種	要注目種	異名:アオスジベッコウ
膜翅(ハチ)目	ミツバチ科	スジボソフトハナバチ	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	異名:スジハナバチ、スジボソコシフトハナバチから変更(2024)。シロスジフトハナバチと比べて、比較的多く生息しているため、標準的に使われる和名が変わったため。
膜翅(ハチ)目	ミツバチ科	ルリモンハナバチ	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	寄主と考えられるスジボソフトハナバチとともに比較的多く見られるため。

新規掲載種(33種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2023	備考
蜂蟻(カゲロウ)目	ヒメシロカゲロウ科	ミツゲヒメカゲロウ	リスト外	絶滅危惧種	新規(2024)。これまで府内から記録されていなかったが、2017年の調査で初めて確認された。これまでの生息地は府内南部に限られており、かつ汎濫原環境の生息場は各地で消滅しているため、保全対策が必要であると判断された。
半翅(カメムシ)目	タイコウチ科	タイコウチ	リスト外	準絶滅危惧種	近年全国的に減少している。京都府内の記録も最近では少ない。
鞘翅(コウチュウ)目	ゲンゴロウ科	シマゲンゴロウ	リスト外	準絶滅危惧種	
鞘翅(コウチュウ)目	オサムシ科	カワラゴミムシ	リスト外	絶滅寸前種	<i>O. aequalis</i> からの変更、新規(2015)。砂地の河川敷に生息する。以前は生息が確認されていたが、最近の記録はほとんど無い。全国的に個体数が減少している。
鞘翅(コウチュウ)目	オサムシ科	セスジヒラタゴミムシ	リスト外	要注目種	<i>Platynus daimio</i> からの変更、新規(2015)
鞘翅(コウチュウ)目	コオイムシ科	エチゴツクリゴミムシ	リスト外	絶滅危惧種	
鞘翅(コウチュウ)目	コガネムシ科	トラハナムグリ	リスト外	絶滅危惧種	
双翅(ハエ)目	ハナアブ科	ミツオビヒゲナガハナアブ	リスト外	要注目種	
双翅(ハエ)目	ハナアブ科	ジョウザンマヒラタアブ	リスト外	絶滅危惧種	
双翅(ハエ)目	ハナアブ科	キヒゲアシフトハナアブ	リスト外	要注目種	<i>P. citricornis</i> からの変更(2015)
双翅(ハエ)目	ハナアブ科	アシフトヒラアシヒラタアブ	リスト外	絶滅危惧種	
鱗翅(チョウ)目	セセリチョウ科	オオチャバナセセリ	リスト外	準絶滅危惧種	2006年の大規模な笹枯れ以降、笹枯れがなかった地域でしか見られない。
鱗翅(チョウ)目	セセリチョウ科	ミヤマセセリ	リスト外	準絶滅危惧種	低山地に広く分布していたが、今では個体数がかなり少ない。
鱗翅(チョウ)目	セセリチョウ科	ミヤマチャバナセセリ	リスト外	絶滅寸前種	2010年以降の報告はない。
鱗翅(チョウ)目	セセリチョウ科	ヘリグロチャバナセセリ	リスト外	絶滅寸前種	元々稀な種であったが、2010年以降の報告はない。
鱗翅(チョウ)目	アゲハチョウ科	ウスバシロチョウ	リスト外	準絶滅危惧種	異名:ウスバアゲハ。産地の数がかなり少なくなり、個体数も減少した。
鱗翅(チョウ)目	シロチョウ科	ヤマトスジグロシロチョウ	リスト外	準絶滅危惧種	異名:エゾスジグロチョウ。近年個体数がかなり少ない。
鱗翅(チョウ)目	シジミチョウ科	ウスイロオナガシジミ	リスト外	絶滅危惧種	山地に発生していたが、近年個体数は少ない。
鱗翅(チョウ)目	シジミチョウ科	コツバメ	リスト外	準絶滅危惧種	低山地に広く分布していたが、今では個体数がかなり少ない。
鱗翅(チョウ)目	シジミチョウ科	ミドリシジミ	リスト外	準絶滅危惧種	産地の数がかなり少なくなり、規模も小さくなった。
鱗翅(チョウ)目	シジミチョウ科	ゴイシシジミ	リスト外	絶滅危惧種	2006年の大規模な笹枯れ以降、笹が健在な府内北部・南部の一部を除き報告がない。
鱗翅(チョウ)目	シジミチョウ科	ウラキンシジミ	リスト外	準絶滅危惧種	植樹がある山地、低山地に広く見られたが、近年山地以外では非常に少ない。
鱗翅(チョウ)目	シジミチョウ科	ウラミスジシジミ	リスト外	準絶滅危惧種	異名:ダイセンシジミ。クヌギ、コナラ林に広く分布するが、近年個体数の減少が激しい。
鱗翅(チョウ)目	タテハチョウ科	コムラサキ	リスト外	準絶滅危惧種	広く分布していたが、今では個体数がかなり少ない。
鱗翅(チョウ)目	タテハチョウ科	サカハチチョウ	リスト外	準絶滅危惧種	山地に広く分布していたが、近年、特に鹿の食害がひどい値域では個体数が非常に少ない。
鱗翅(チョウ)目	タテハチョウ科	ヤマキマダラヒカゲ	リスト外	準絶滅危惧種	2006年の大規模な笹枯れ以降、府内北部を除き極めて少ない。
鱗翅(チョウ)目	タテハチョウ科	シータテハ	リスト外	準絶滅危惧種	京都市内、府内中部で数例の採集記録があるが近年はない。
鱗翅(チョウ)目(蛾類)	ツトガ科	ミドロミズメイガ	リスト外	要注目種	寄主のコウホネ類生育湿地の減少によって分布が限定されるようになったため。

鱗翅(チョウ)目(蛾類)	アゲハモドキガ科	フジキオビ	リスト外	準絶滅危惧種	近年の記録は京都市内のみで、他地域での分布調査の必要があるため。
鱗翅(チョウ)目(蛾類)	ヤママユガ科	シンジュサン	リスト外	要注目種	全国的に個体数が減少しており、京都でも報告は少なくなっているため。
鱗翅(チョウ)目(蛾類)	ヤガ科	クスジウスキヨトウ	リスト外	準絶滅危惧種	生息湿地の減少と悪化にともない、個体数が減少しているため。
鱗翅(チョウ)目(蛾類)	ヤガ科	キシタアツバ	リスト外	要注目種	近年全国的に減少している。京都府内の記録も最近では少ないため。
鱗翅(チョウ)目(蛾類)	ヤガ科	オオチャバネヨトウ	リスト外	準絶滅危惧種	生息沼沢地の減少と悪化にともない、分布が限定されるようになったため。

#### リスト外に移行した種(30種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2023	備考
直翅(バッタ)目	ケラ科	ケラ	要注目種	リスト外	田畑や荒地に広く分布し、個体数も少なくない。
蟷螂(カマキリ)目	カマキリ科	カマキリ	要注目種	リスト外	水田周辺や河川敷、空き地などに広く分布し、個体数も少なくない。
ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	ツチゴキブリ	要注目種	リスト外	
半翅(カメムシ)目	カメムシ科	ルリクチブトカメムシ	要注目種	リスト外	個体数は少なくない。
鞘翅(コウチュウ)目	ゲンゴロウ科	カムリセシジゲンゴロウ	要注目種	リスト外	
鞘翅(コウチュウ)目	オサムシ科	ナミハンミョウ(ハンミョウ)	絶滅危惧種	リスト外	
鞘翅(コウチュウ)目	オサムシ科	クロカチビロオサムシ	要注目種	リスト外	
鞘翅(コウチュウ)目	オサムシ科	キョウトメクラチビゴミムシ	要注目種	リスト外	
鞘翅(コウチュウ)目	ガムシ科	ガムシ(オオガムシ)	要注目種	リスト外	
鞘翅(コウチュウ)目	ヒメドロムシ科	ヨモジドロムシ	要注目種	リスト外	
鞘翅(コウチュウ)目	タマムシ科	オオムツボシタマムシ	要注目種	リスト外	
鞘翅(コウチュウ)目	コメツクムシ科	コガタヒメサビキコリ	要注目種	リスト外	
鞘翅(コウチュウ)目	コメツクムシ科	フタモンウバタマコメツク	要注目種	リスト外	タイプ産地: 府内中部
鞘翅(コウチュウ)目	コメツクムシ科	タンバココロコメツク	要注目種	リスト外	タイプ産地: 京都市内
鞘翅(コウチュウ)目	コメツクムシ科	ヒラタクシコメツク	要注目種	リスト外	タイプ産地: 府内南部
鞘翅(コウチュウ)目	コメツクムシ科	ヨツボシミズギワコメツク	要注目種	リスト外	タイプ産地: 府内南部
鞘翅(コウチュウ)目	コメツクムシ科	ヤマモツヤミズギワコメツク	要注目種	リスト外	タイプ産地: 京都市内
鞘翅(コウチュウ)目	コメツクムシ科	ニホンチビマメコメツク	要注目種	リスト外	タイプ産地: 京都市内
鞘翅(コウチュウ)目	カッコウムシ科	ヤマトヒメメダカッコウムシ	要注目種	リスト外	タイプ産地: 京都市内
鞘翅(コウチュウ)目	テントウムシ科	クロスジチャイロテントウ	要注目種	リスト外	
鞘翅(コウチュウ)目	ゴミムシダマシ科	ヤマトオサムシダマシ	要注目種	リスト外	
鞘翅(コウチュウ)目	ゴミムシダマシ科	クロキノゴミムシダマシ	要注目種	リスト外	
鞘翅(コウチュウ)目	ゴミムシダマシ科	ハネナシセシキマフリ	要注目種	リスト外	
鞘翅(コウチュウ)目	ハムシ科	キベリハムシ	要注目種	リスト外	
鞘翅(コウチュウ)目	オトシブミ科	ピロードアシナガオトシブミ	要注目種	リスト外	
双翅(ハエ)目	ガガンボ科	ミカドガガンボ	要注目種	リスト外	
双翅(ハエ)目	ハルカ科	ハマダラハルカ	要注目種	リスト外	
双翅(ハエ)目	シギアブ科	キアシキンシギアブ	要注目種	リスト外	
双翅(ハエ)目	ムシヒキアブ科	アオメアブ	要注目種	リスト外	
双翅(ハエ)目	ツリアブ科	クロバネツリアブ	要注目種	リスト外	

#### 新規発見種(20種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2023	備考
蟷螂(カマキリ)目	ヒメカマキリ科	サツマヒメカマキリ		要注目種	新規(2024)
半翅(カメムシ)目	ツチカメムシ科	シロヘリツチカメムシ		準絶滅危惧種	新規(2024)。2020年に府内南部の草原で初めて発見された。カナビキソウを寄主植物とする。
総翅(アザミウマ)目	クダアザミウマ科	オモトクダアザミウマ		要注目種	新規(2024)。日本固有種・本州では千葉県だけが従来産地で、府内中部は新記録・分布西限で1箇所のみ。
総翅(アザミウマ)目	クダアザミウマ科	和名なし( <i>Liothrips fungi</i> )		要注目種	新規(2024)。日本固有種・模式産地は京都市内。 <i>Liothrips</i> でありながら菌食性と思われる独特の食性。1990年代以降再発見されていない。

総翅(アザミウマ)目	クダアザミウマ科	和名なし( <i>Hoplothrips tua</i> )	要注目種	新規(2024)。日本固有種・本州では東京都だけが従来産地で、京都市は新記録・分布西限で1箇所のみ。
鞘翅(コウチュウ)目	コガシラミズムシ科	キイロコガシラミズムシ	絶滅危惧種	新規(2024)
鞘翅(コウチュウ)目	ガムシ科	ニセコクロヒラタガムシ	準絶滅危惧種	新規(2024)
鞘翅(コウチュウ)目	ガムシ科	マルヒラタガムシ	絶滅危惧種	新規(2024)
鞘翅(コウチュウ)目	カミキリムシ科	トガリバホソコバナカミキリ	要注目種	新規(2024)
鞘翅(コウチュウ)目	カミキリムシ科	オニホソコバナカミキリ	準絶滅危惧種	新規(2024)
双翅(ハエ)目	キノコバエ科	マダラカモドキ	要注目種	新規(2024)
双翅(ハエ)目	クサアブ科	シマクサアブ	絶滅危惧種	新規(2024)
双翅(ハエ)目	ムシヒキアブ科	ムラサキクチプトイシアブ	要注目種	新規(2024)
双翅(ハエ)目	ツリアブ科	アリジゴクツリアブ	準絶滅危惧種	新規(2024)
双翅(ハエ)目	ハナアブ科	ケンランアリノスアブ	絶滅危惧種	新規(2024)
双翅(ハエ)目	ハナアブ科	コブアリノスアブ	要注目種	新規(2024)
双翅(ハエ)目	ヤチバエ科	ヤドリヤチバエ	準絶滅危惧種	新規(2024)
鱗翅(チョウ)目	シジミチョウ科	キリシマミドリシジミ	絶滅危惧種	新規(2024)。近年越冬卵採卵により発見された 産地は極めて局地的で密度も低い。
鱗翅(チョウ)目	マダラガ科	ヤホシホソマダラ	要注目種	新規(2024)。近年京都府内の複数箇所で見られた。
膜翅(ハチ)目	ミツバチ科	ウスルリモンハナバチ	絶滅危惧種	新規(2024)。生息基盤が貧弱。

#### 種名変更など(9種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2023	備考
鞘翅(コウチュウ)目	タマキノコムシ科	オオヒゲオオヒゲフトチビシテムシ	絶滅危惧種	絶滅危惧種	ババヒゲフトチビシテムシから変更(2024)
鞘翅(コウチュウ)目	タマキノコムシ科	ヤマトヒゲフトチビシテムシ	絶滅危惧種	絶滅危惧種	サツマヒゲフトチビシテムシから変更(2024)
鞘翅(コウチュウ)目	タマムシ科	クロコモンタマムシ	絶滅寸前種	絶滅寸前種	<i>Descarpentriesina chinensis yanoi</i> からの変更、ヤノコモンタマムシから変更(2024)
鞘翅(コウチュウ)目	コメツキムシ科	オグラカバイロコメツキ	要注目種	要注目種	チャイロムナボソコメツキから変更(2024)
鞘翅(コウチュウ)目	ゴミムシダマシ科	シフヒサゴゴミムシダマシ	絶滅寸前種	絶滅寸前種	ヒサゴゴミムシダマシから変更(2024)
鞘翅(コウチュウ)目	オトシブミ科	ヌルデケシツブチョッキリ	絶滅種	絶滅種	ヒメクロケシツブチョッキリ巨椋池個体群からの変更、異名:ハダカケシツブチョッキリ、コクロケシツブチョッキリから名前変更(2024)
双翅(ハエ)目	アブ科	キンメアブ	絶滅危惧種	絶滅危惧種	異名:ヨスジハネモンアブ。ヨスジキンメアブから変更(2024)
双翅(ハエ)目	ハナアブ科	クロオビハラプトハナアブ	要注目種	要注目種	クロオビハナアブから変更(2024)
膜翅(ハチ)目	ミツバチ科	シロスジフトハナバチ	絶滅危惧種	絶滅危惧種	シロスジコシフトハナバチから変更(2024)。標準的に使われる和名が変わったため。

## クモ類変更点

### ダウンリスト種(2種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2023	備考
クモ目	ヒトエグモ科	ヒトエグモ	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	京都府内で新たな生息地が明らかになったため。
クモ目	ホウシグモ科	ドウシグモ	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	大阪府、兵庫県で最近、発見があり、京都府の同様の環境で生息している可能性があると考えられるため。

### 新規掲載種(5種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2023	備考
クモ目	エンマグモ科	シマミヤグモ	リスト外	要注目種	海岸の岩の割れ目に管状の住居を造る。国内各地で発見されているものの、府内中部の記録のみ。
クモ目	コガネグモ科	キジロオヒキグモ	リスト外	要注目種	やや日当たりの悪い樹間に垂直円網を張る。国内各地で発見されているものの、京都市内の記録のみ。
クモ目	コガネグモ科	ゲホウグモ	リスト外	要注目種	樹間に垂直円網を張る。国内各地で発見されているものの、京都市内の記録のみ。
クモ目	ナミハグモ科	タンゴコガタナミハグモ	リスト外	要注目種	崖地に、3つの出入口がある三角形の住居を造る。国内で府内北部でのみ発見されている。
クモ目	スオウグモ科	ムロズミソレグモ	リスト外	要注目種	徘徊して獲物を捕らえると考えられる。国内の記録は愛知県から山口県、愛媛県にかけての8府県、京都府内の記録は京都市内のみ。

### リスト外に移行した種(1種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2023	備考
クモ目	ヒメグモ科	コガタコノハグモ	要注目種	リスト外	2015年の時点では、採集記録は京都府と佐賀県のみであったため取り上げたが、その後、他の複数の県で発見されている。

### 新規発見種(2種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2023	備考
クモ目	ナミハグモ科	ダイヤモンドナミハグモ	リスト外	要注目種	崖地に、V字型で2つの出入り口がある管状住居を造る。国内で京都市内でのみ発見されている。
クモ目	ハグモ科	イソタナグモ	リスト外	要注目種	海岸の岩場に管状住居を造り、入口に棚状の網を張る。国内に広く分布するものの、京都府内の記録は府内北部のみ。

### 所属科を変更した種(1種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2023	備考
クモ目	ハグモ科	ミズグモ	絶滅危惧種	絶滅危惧種	従来、ナミハグモ科に属するとされていたが、現在のWorld Spider Catalog に従ってハグモ科とする。

## 菌類変更点

### アップリスト種(6種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2024	備考
エウロチウム目	ツチダング科	ツチダング	要注目種	準絶滅危惧種	近年の確認例が少ないことからランクアップした。アカマツに共生する菌であり、環境の悪化も激しい。
チャワンタケ目	フクロシトネタケ科	クルミタケ	要注目種	準絶滅危惧種	分類的な過大もあり、一度要注目としたが、近年の確認例が見られないことからランクアップした。
チャワンタケ目	アミガサタケ科	テンガイカブリタケ	要注目種	準絶滅危惧種	前回初めて発見された例をもとに登録したが、発生例が少ないため。
チャワンタケ目	オオゴムタケ科	エツキクロコップタケ	要注目種	準絶滅危惧種	温帯以北の倒木に生えるが、シカ害などによる林床の乾燥化により、発生例に限られる。
ポタンタケ目	オフィオコルディセプス科	タンポヤンマタケ	絶滅危惧種	絶滅寸前種	近年の発見例が見られないため。ランクアップした。ヤンマタケと同一種とされるが、有性生殖型の発見はヤンマタケに比べ限られることから、本リストでは区別して扱った。
ハラタケ目	シメジ科	ブナシメジ	要注目種	準絶滅危惧種	食用菌としてよく知られる本菌であるが、野外では極めて発生例が少ない。

### ダウンリスト種(14種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2024	備考
エウロチウム目	ツチダング科	コウボウフデ	絶滅寸前種	絶滅危惧種	発生地では安定的に見られ、再発見もみられることから。
ポタンタケ目	ノムシタケ科	テップウムシタケ	絶滅寸前種	絶滅危惧種	再発見例がみられることから。
ポタンタケ目	ポタンタケ科	スッポンヤドリタケ	絶滅危惧種	準絶滅危惧種	再発見例も増え、産地も増えたため。
ハラタケ目	ハラタケ科	スジチャダイゴケ	準絶滅危惧種	要注目種	かつてのような積み藁からの発生例は少ないが、木材チップなどに安定的に見られることから。
ハラタケ目	テングタケ科	キタマゴタケ	絶滅寸前種	要注目種	冷温帯以北のものが真のキタマゴタケとされ、暖温帯のものはチャタマゴタケ(黄色型)と判明した。京都府下にキタマゴタケが分布しているか再検討が必要。
ハラタケ目	カブラマツタケ科(キシメジ科に編入する意見もある)	ブンゴツボマツタケ	絶滅寸前種	絶滅危惧種	近年の再発見例が多いことから。
イグチ目	ショウロ科	ショウロ	絶滅寸前種	準絶滅危惧種	近年の再発見例が多いことから。
ラッパタケ目	ラッパタケ科	ウスタケ	準絶滅危惧種	要注目種	モミ林の減少と乾燥化を懸念して登録したが、比較的安定した発生が見られることから、要注目種にダウンして推移を見守る。
ラッパタケ目	ラッパタケ科	フジウスタケ	準絶滅危惧種	要注目種	モミ林の減少と乾燥化を懸念して登録したが、比較的安定した発生が見られることから、要注目種にダウンして推移を見守る。
スッポンタケ目	スッポンタケ科	イカタケ	絶滅寸前種	準絶滅危惧種	かつては積み藁に発生したきこのであったが、近年は木材チップ上に比較的見られる。
スッポンタケ目	スッポンタケ科	アカイカタケ	絶滅寸前種	絶滅危惧種	近年の再発見例が多いことから。
スッポンタケ目	スッポンタケ科	カゴタケ	絶滅寸前種	絶滅危惧種	近年の再発見例が多いため一段階下げたが、生態に不明な点が多い。
スッポンタケ目	スッポンタケ科	キイロスッポンタケ	絶滅種	絶滅寸前種	再発見された事による。環境は比較的安定と思われるが、シカ害による乾燥を考慮。
ベニタケ目	ベニタケ科	アカモミタケ	準絶滅危惧種	要注目種	モミ林の減少と乾燥化を懸念して登録したが、比較的安定した発生が見られることから、要注目種にダウンして推移を見守る。

### 新規掲載種(3種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2024	備考
ポタンタケ目	ハッカクキン科	クサナギヒメタンポタケ	リスト外	要注目種	蛾など(鱗翅目)の幼虫や蛹から発生する。府内でも発生環境はごく限られ、環境省情報不足(2020)に指定されていることから要注目とした。
ポタンタケ目	オフィオコルディセプス科	ヌメリタンポタケ	リスト外	要注目種	マツ林に生える地下生菌のツチダングに寄生する冬虫夏草の仲間。宿主のツチダングを準絶滅危惧種としたことから本種も要注目とした。

ポタンタケ目	オフィオコルディセプス科	タンポタケ	リスト外	要注目種	マツ林に生える地下生菌のツチダンゴに寄生する冬虫夏草の仲間。宿主のツチダンゴを準絶滅危惧種としたことから本種も要注目とした。
--------	--------------	-------	------	------	--

#### リスト外に移した種(6種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2024	備考
ピョウタケ目	キンカクキン科	マツカサチャワンタケ	要注目種	リスト外	モミ林の減少と乾燥化を懸念して登録したが、比較的安定した発生が見られることから。
チャワンタケ目	セイヨウシヨウロ科	クロアミメセイヨウシヨウロ	要注目種	リスト外	吉見の認識の上でのアミメセイヨウシヨウロには、アジアクロセイヨウシヨウロ( <i>Tuber himalayense</i> )とウロイボセイヨウシヨウロ( <i>Tuber</i> sp.)ほか混在していたことが近年の研究で明らかになった。このため、本種をリストから削除し、情報の少ないアジアクロセイヨウシヨウロとウロイボセイヨウシヨウロを要注目種として登録することとした。
チャワンタケ目	ピロネマ科	ウツロイモタケ	要注目種	リスト外	2015年版にも記した通り2002年版で吉見が報告した「ウツロイモタケ(吉見)」は小林の記載文と一致せず、吉見も <i>Gyrocartera ploettneriana</i> Henn. という別の学名を充てていた。この学名は現在クルミタケ属の種の異名とされており、吉見の残した記載もクルミタケ属の特徴を示す。ただ、国立科学博物館に残る標本でも種同定まではできていない。このため、本リストでは種不明として一度リスト外に整理する判断とした。
ポタンタケ目	オフィオコルディセプス科	トガリスズメバチタケ	準絶滅危惧種	リスト外	近年の見解ではハチタケの変異型として同一種とみなされている。本リストでもハチタケとして取り扱うこととして、種としては必ずしも減少傾向にないと判断しリスト外とした。
ハラタケ目	テングタケ科	カバイロコナテングタケ	要注目種	リスト外	テングタケ類の中ではやや珍しいが、各所に発生記録があり、減少傾向にはない。
ハラタケ目	ナヨタケ科	クロヒメオニタケ	絶滅寸前種	リスト外	目立たない菌であるが、認識されるようになると比較的多く見つかることから。

#### 新規発見種(4種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2024	備考
ポタンタケ目	ノムシタケ科	ウスイロコゴメセミタケ		絶滅危惧種	母種のウスキタンポセミタケは環境省絶滅危惧II類(2020年版)となっている。このリストはウスイロコゴメタケを別に扱う中で、全国的な分布の中で京都府の状態を絶滅危惧種に相当すると判断した。
ポタンタケ目	ニクザキン科	オオポタンタケ		絶滅危惧種	オオポタンタケは腐朽の進んだ材などに発生する子囊菌である。近縁には菌寄生性の種も多い。京都府下でも複数の確認がされ、環境省絶滅危惧II類(2020年版)でもある状況を考え準絶滅危惧種とした。
ハラタケ目	シメジ科	シロタモギタケ		要注目種	シロタモギタケも府内中部で確認されている。温帯以北の材上性の種でもあり、環境省情報不足(2020年版)ともなっている。ブナ林域のシカ害なども踏まえ、要注目種とした。
イグチ目	イグチ科	ヤマドリタケ		要注目種	冷温帯以北に分布するヤマドリタケは、古いリストではヤマドリタケモドキと混同されてきた。京都府域のヤマドリタケの明確な確認はされていない。過去の記録の精査とブナ林上部での発生例について今後確認が必要。

#### 種名変更など(2種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2024	備考
チャワンタケ目	セイヨウシヨウロ科	アジアクロセイヨウシヨウロ		要注目種	クロアミメセイヨウシヨウロと言われていたものの一部。
チャワンタケ目	セイヨウシヨウロ科	ウロイボセイヨウシヨウロ		要注目種	クロアミメセイヨウシヨウロと言われていたものの一部。